



周南地域における
集落営農法人経営安定のための
大豆振興支援

周南農林事務所農業部

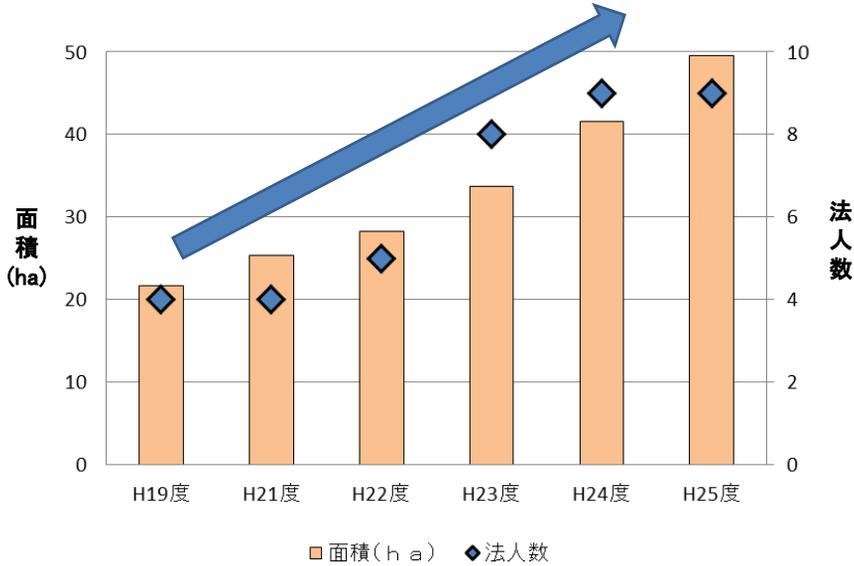


周南地域における集落営農法人経営安定のための大豆の振興支援

1 普及活動の課題・目標

1 普及活動の課題・目標

周南地域の大豆作付法人数と面積の推移



1 普及活動の課題・目標

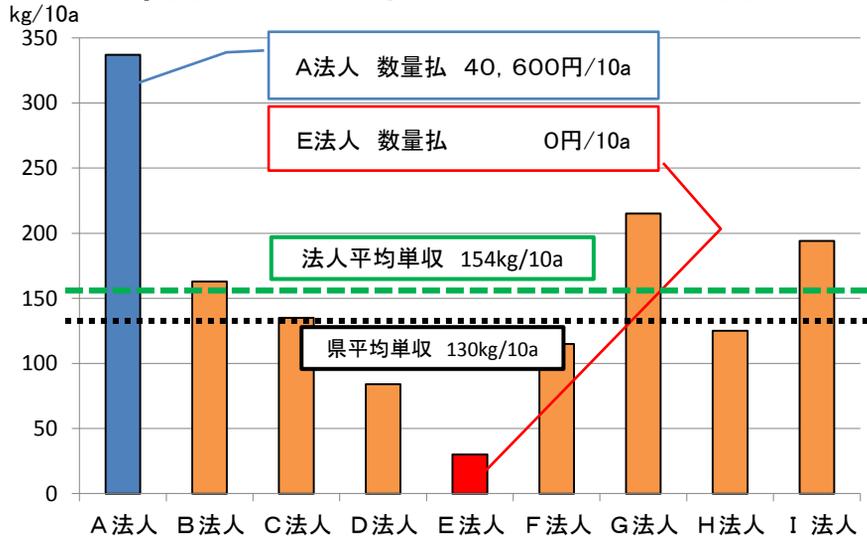
大豆生産のメリット＝交付金

大豆価格 5,783円/60kg、全量3等、10a当たり

収 量	150kg
①粗 収 益	14,458円
②生 産 費	86,818円
	うち機械関連費 9,598円
	うち労働費 25,958円
③収 支(①-②)	-72,361円
※H21年産県内法人実績(8.5ha規模、4法人)	
④戦略作物助成	35,000円
⑤営農継続支払	20,000円
⑥数量払(営農継続部分除く)	7,000円
⑦産地資金	20,000円(周南)、23,000円(南すおう)
⑧交付金合計(④~⑦合計)	82,000円(周南)、85,000円(南すおう)
補てん後の収支(③+⑧)	9,640円(周南)、12,640円(南すおう)

1 普及活動の課題・目標

各法人の単収(平成24年度)



1 普及活動の課題・目標

各法人の単収(平成24年度→平成25年度)





周南地域における集落営農法人経営安定のための大豆の振興支援

2 普及活動の内容

2 普及活動の内容

(1) 優良生産法人の技術内容の分析

- ① 着莢位置を高くして、コンバインの収穫ロスを軽減するために19本/m²の栽植本数を確保している。
- ② 雑草対策を徹底している。
- ③ 播種や防除等の適期作業を実行している。

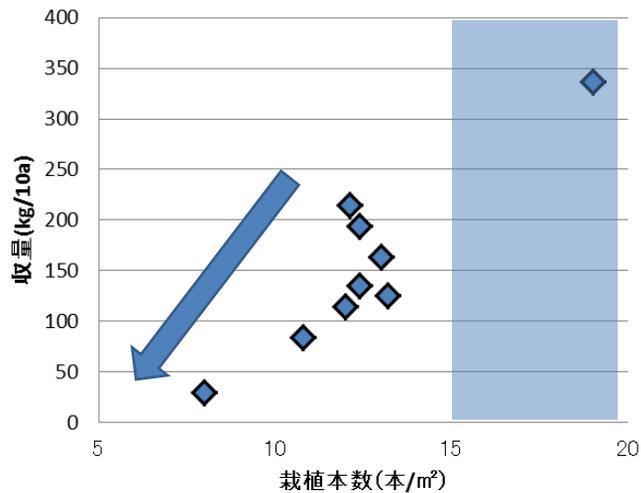
(有)鹿野アグリ

平成24年度 全国豆類経営改善共励会大豆集団の部で農林水産大臣賞受賞



全国豆類経営改善共励会表彰にて社長(右)、大豆担当(左)

平成24年度の収量と栽植本数の実際



- 栽植本数が少ないと、収量が少ない傾向

栽植本数確保

雑草対策

適期作業

(2) 栽植本数確保に向けた取り組み

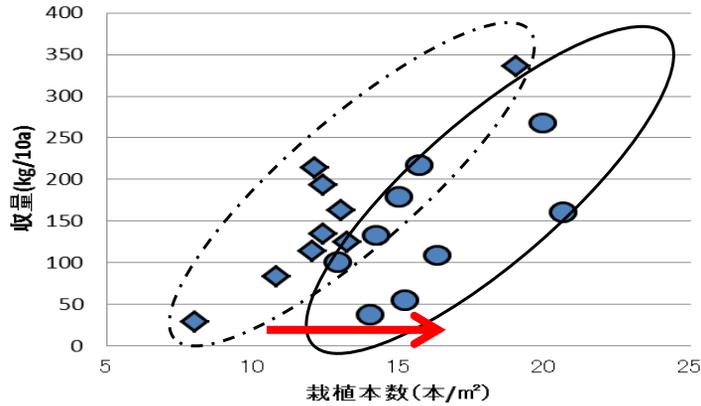
- 播種量を増やすための播種機の設定変更
- 播種作業指導



発芽数の確認



収量と栽植本数の関係



◆ 平成24年度 11.7本/m²

⇒ ● 平成25年度 15.5本/m²

栽植本数を増加するための注意点

播種機の設定

22.7本/m²

H法人

19.0本/m²

F法人

14.2本/m²

作業速度を下げる
等



(3) 雑草対策に向けた取り組み

● 新たな除草技術の実証ほ設置・支援

① **ディスク式中耕除草機**作業性確認

→ 湿潤状態のほ場でも作業可能

② バスタ液剤(除草剤)による、**吊り下げノズル**を利用した大豆畝間株間処理効果の確認

→ 帰化アサガオやとりこぼした雑草を枯らす

③ 播種同時除草剤散粒機での土壌処理効果の確認(支援)

→ 初期の除草剤散布時期を逃さない

● 雑草対策研修会の実施

実証ほ設置・研修会の位置づけ

雑草対策研修会

周南地域
集落営農法人等
連絡協議会

ディスク式中耕除草機

普及指導員調査研究県域課題

吊り下げノズルでの畝間株間処理

普及指導員調査研究県域課題
新農業資材確認ほ

県農林総合技術センター
技術指導室

周南農林農業部

雑草対策研修会の開催の効果

<8月6日>

- ディスク式中耕除草 1回目
出席14名

<8月19日>

- ディスク式中耕除草 2回目
- 吊り下げノズル除草剤散布
出席31名

除草対策技術の選択肢の広がりを目の当たりにできた。

法人同士があつまり、情報交換できた。

8月6日:最高気温34.3℃



8月19日:最高気温35.1℃



実証ほの結果

- ディスク式中耕除草機では作業時間が従来の約1/2となった。
- 吊り下げノズルでの畝間株間処理は効果が高く、大豆への影響もなかった。そのため、収穫前抜き取り作業の軽減も可能。

ディスク式中耕除草機



吊り下げノズルでの畝間株間処理



(4) 適期作業に向けた取り組み

- 法人ごとに生育状況を把握
- 状況に合わせた管理作業資料の作成・配布、指導
- 優良生産法人に展示ほを設置し、栽培技術の情報収集・提供
- 法人間作業受委託での連携調整の場づくり

大豆栽培について (収穫) ～最後の仕上げは万全に～

平成 25 年 10 月 22 日
高田農林事務所農薬部



【サンシメウ：深々万】
10月21日現在：落葉期
●成熟期：10月30日(推定)
●収穫期：11月6日～11月19日頃(推定)
※今後の天候によって時期は変動しますので、農薬をよく観察してください。
※成熟期→全株数の80～90%の葉の大部分が落葉を振るとカラカラ音がする時期

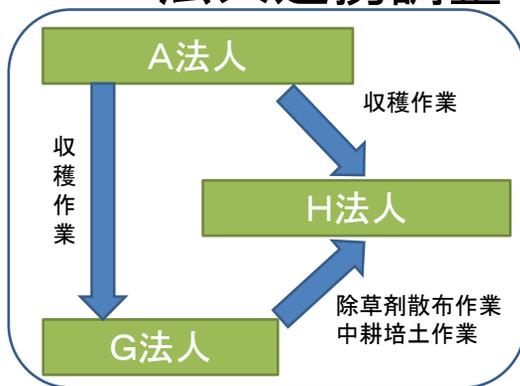
当面の栽培管理：収穫に向けて、最後の仕上げをしましょう。

- ①ほ場内の雑草や青立ち株を抜き取りましょう。
雑草や青立ち株が残っていると、汚損粒が発生し、品質低下の原因となります。
- ②適期収穫のため、ほ場観察により作業計画を立てましょう。
今年は10月に入っても葉面だったため、成熟期はやや遅くなっています。今後の気象状況にもよりますが、収穫適期は昨年より遅い可能性があります。早めに準備しておき、決まりの収穫適期は、11月6日～11月9日頃の見込み。
ほ場に大豆の生育状況(葉の黄変や落葉の状況)を把握し、収穫適期を迎えたほ場から収穫する体制を整えましょう。

収穫時のポイント：汚損粒の発生を防止しましょう。

- ①収穫時期(成熟期の7～20日後が目安)
現時点での収穫時期は11月6日～11月19日頃と予想されます。
収穫に適した大豆は、以下のとおり。基本分が高いと汚損粒発生の原因になります。
○子実水分 20%以下：歯が爪跡がつく。噛みつぶれる。
○基本分 50%以下：茎を手で折ると、茎が折れる状態。茎が折ると茶色から黒色(茎に緑色が残っている状態で水分70%程度)。
- ②収穫時刻
汚損粒の発生を防止するため、朝霧が完全に乾いた状態で収穫する(晴れた日であれば午前10時以降)。
- ③汚損粒対策
収穫前に、雑草や青立ち株の抜き取りを徹底しておくことが一番の対策になります。また、畑の隅み込みを防止するため、畑端に低い位置での刈り取りは避けましょう(刈り取りの高さは地上10cm程度)。

法人連携調整の場づくり



- <委託法人>
機械代のコストカット
- <受託法人>
収入アップ



3 普及活動の内容

(5) 法人ごとの課題の把握

法人	栽植本数	雑草対策	畝間灌水	オペ確保	ほ場集約	法人連携	害虫防除
A法人			✓				
B法人			✓	✓			
C法人	✓	✓					✓
D法人	✓	✓			✓		✓
E法人	✓	✓	✓	✓			✓
F法人	✓			✓			
G法人	✓						✓
H法人						✓	
I法人	✓	✓			✓		

2 普及活動の内容

(6) 次作に活かせる技術情報のフィードバック

栽植本数確保 →

雑草対策 →

適期作業 →



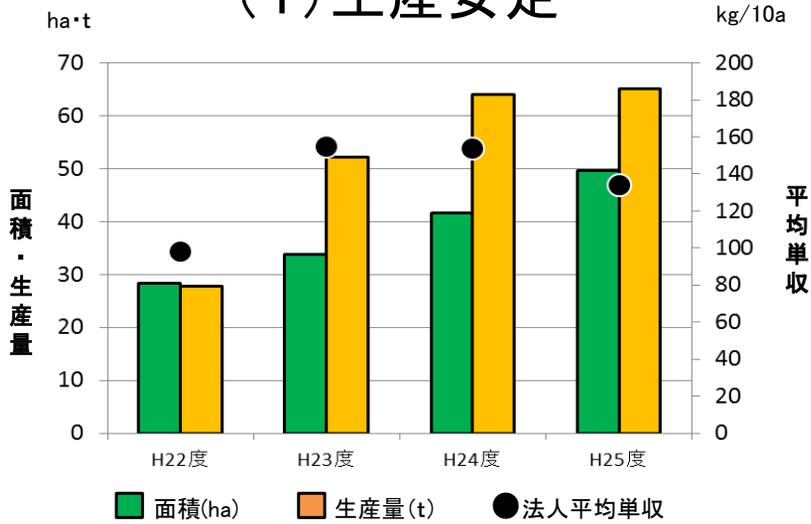


周南地域における集落営農法人経営安定のための大豆の振興支援

3 普及活動の成果

3 普及活動の成果

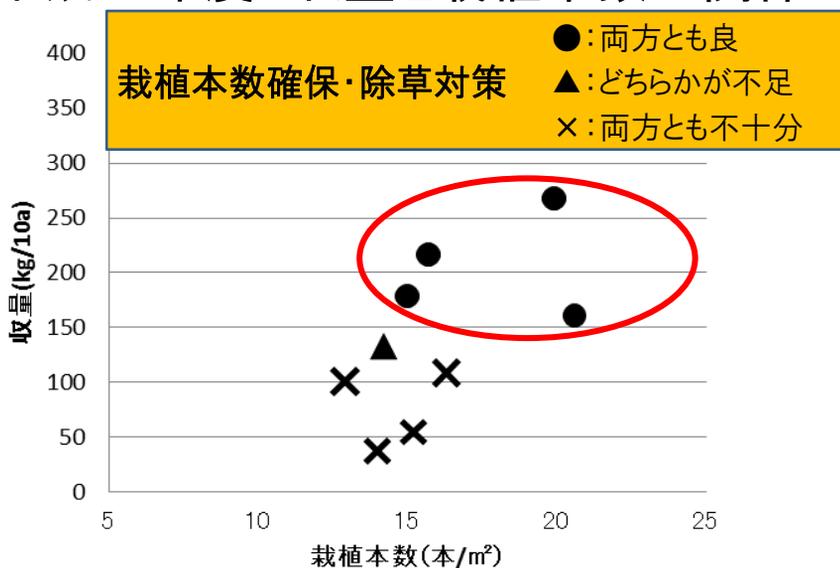
(1) 生産安定



目標単収200kg/10a : 平成25年度134kg/10a

3 普及活動の成果

平成25年度 収量と栽植本数の関係



3 普及活動の成果

(2) 後継者の育成

- 研修会への若いオペレーターの参画



- 大豆づくりへの情熱発信



→後継者育成の必要性

3 普及活動の成果

(3) 栽培技術の普及

- 優良生産法人への
展示ほへの視察

- 雑草対策の実証ほ
結果の共有化

→他地域への波及



視察の様子



周南地域における集落営農法人経営安定のための大豆の振興支援

4 今後の普及活動に向けて

4 今後の普及活動に向けて

4 今後の普及活動に向けて

(1) 栽培管理技術の向上

→各法人毎の栽培改善による高位平準化

(2) 生産環境の整備

→法人育成での大豆生産量の増大

→地域法人協の取り組み強化

(3) 地産・地消の強化

→結びつき大豆による地域農業の活性化

“交付金のため”以外のやる気(夢・目標)

4 今後の普及活動に向けて

